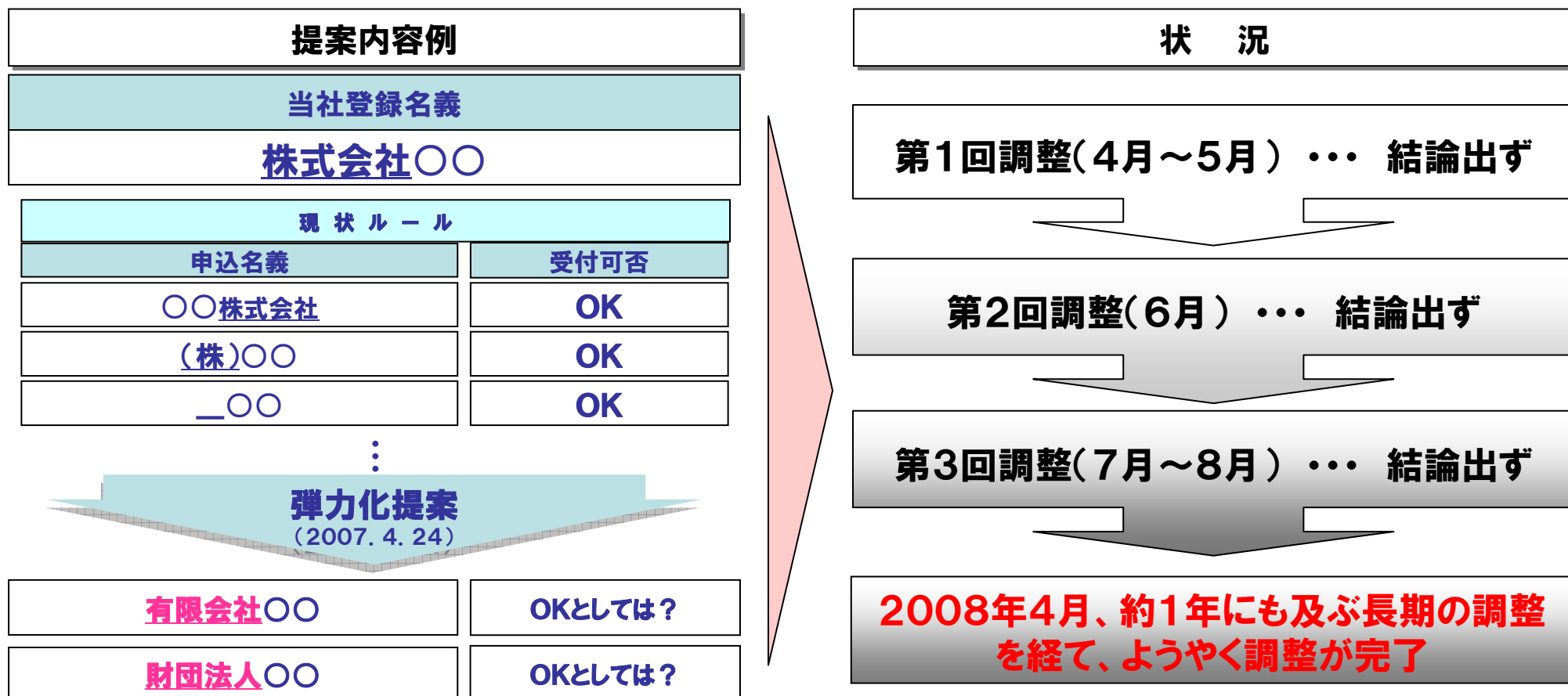


## ④－2 事業者間調整の一例

■事業者間調整が容易であると考えられていたADSLの回線名義人に関する確認ルールについてさえ、その調整に約1年にも及ぶ長期の期間を要しました。

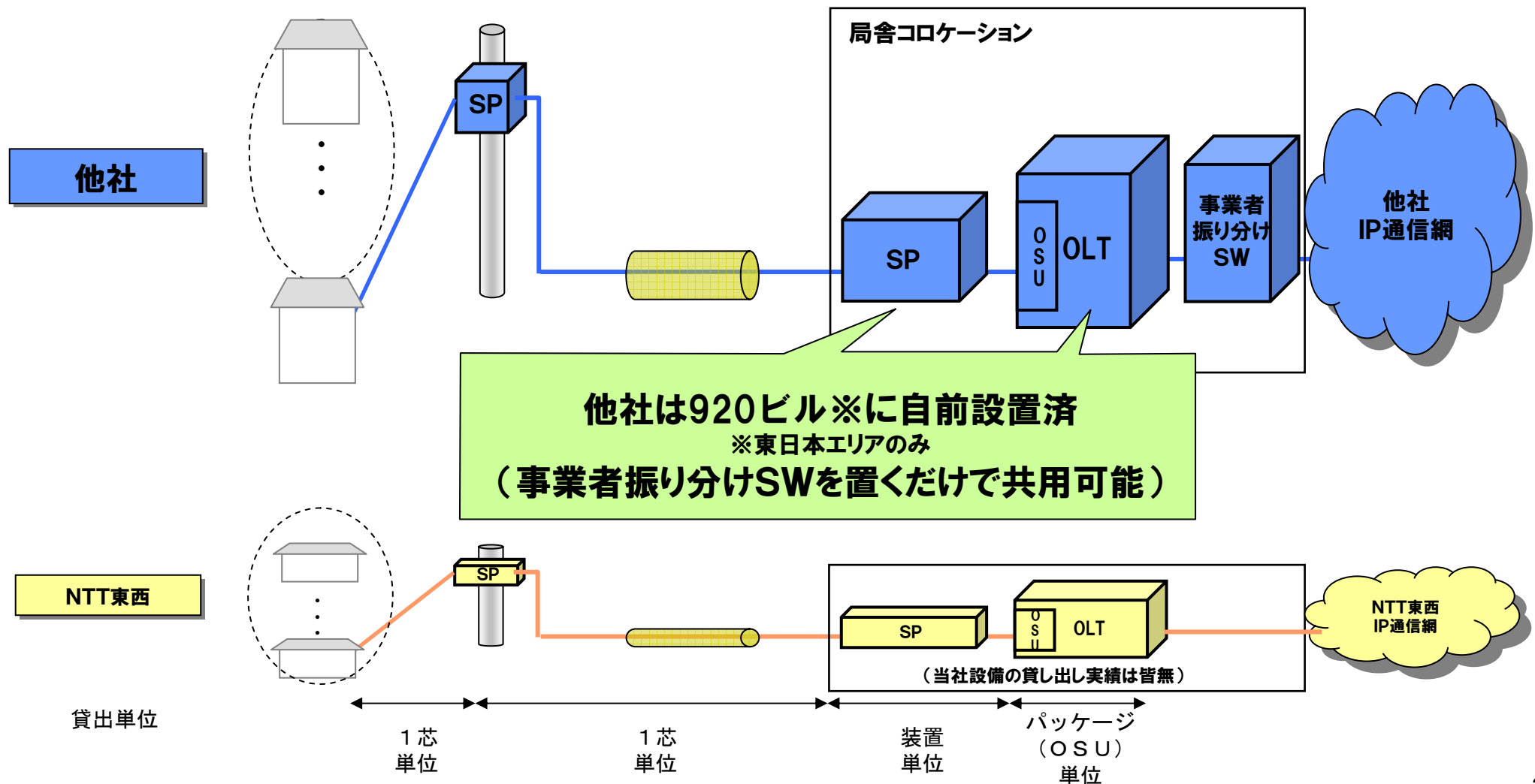
(当社から各社に具体案を提案しましたが、賛否両論が提起され、調整が長期化)

※主な反対理由：ご本人が「正式に申し込んだ覚えがない」とされるケースが生じており、弾力化を図った場合、安易な代行申込みを助長する。



## 他社は当社と同様なアクセスサービスの提供が十分可能

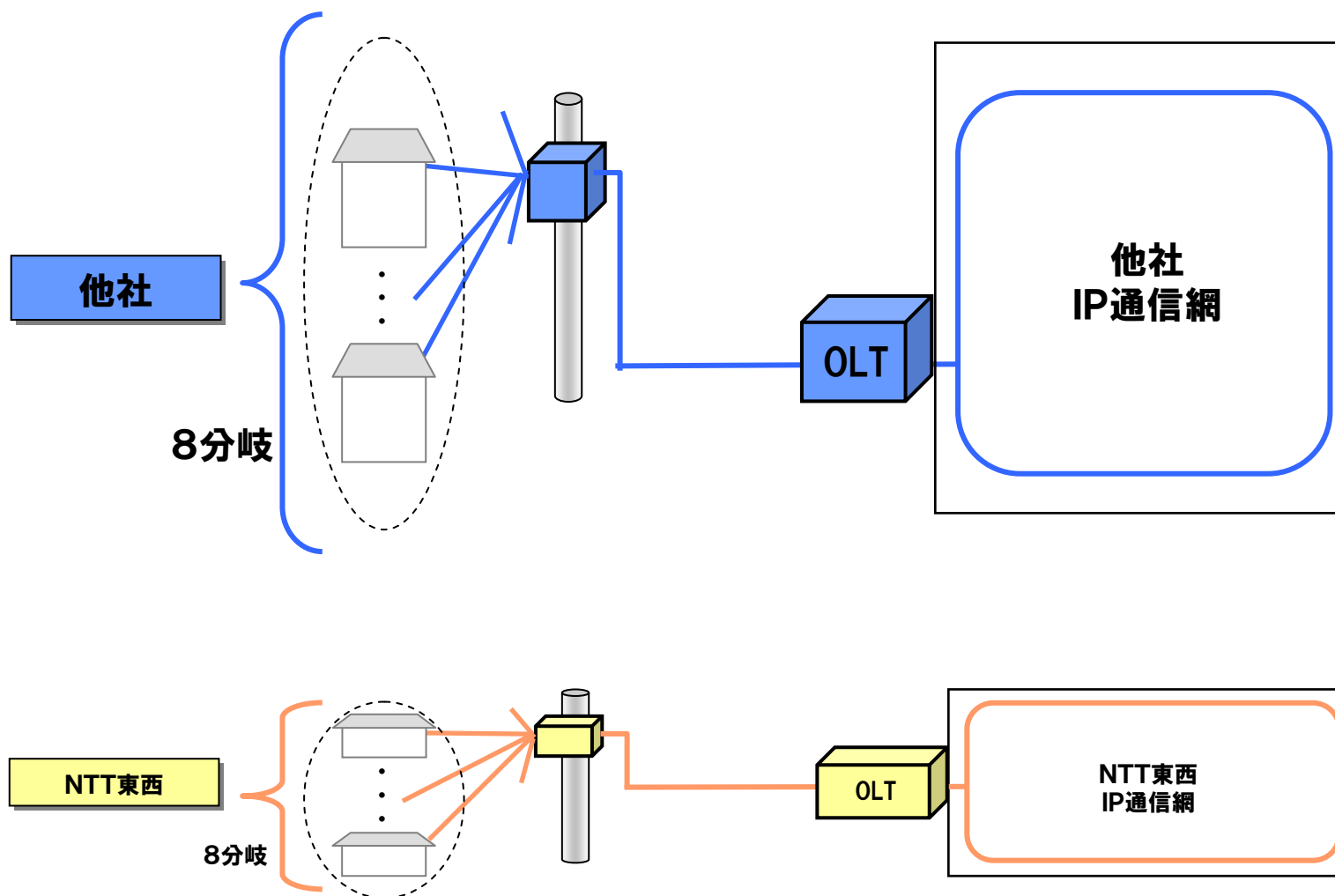
- 当社の分岐方式は、既にダークファイバ1芯線単位、OLTは1パッケージ（OSU）単位といった設備の最小単位で貸し出しをしております。
- また、OLT等を自ら設置することも可能であり、現に他社は920ものビルにOLT等を自前で設置しております（事業者振り分けスイッチを置くだけで共用可能）。



## 他社は効率的なサービス提供も十分可能

■ 共用を要望されている7社\*は、約900万のブロードバンドユーザを有しており、当該事業者様同士でOLTを共用することによって、効率的なサービス提供が十分可能です。

※アッカ・ネットワークス殿、イー・アクセス殿、KDDI殿、ソフトバンクテレコム殿、ソフトバンクBB殿、TOKAI殿、ビック東海殿



共用要望を出されている  
7社合計のブロードバンド  
顧客基盤

合計	850万+α
ADSL	781万+α
FTTH	69万+α

(出典:総務省公表値 H19.12月末時点)

(注)この他、**直収電話で497万**  
(KDDI殿及びソフトバンクテレ  
コム殿のH20年3月期決算資  
料よりH20.3月末時点)、**携  
帯電話で4,717万**(総務省  
公表値 H19.12月末時点)の  
顧客基盤を有する。

合計	1,295万
ADSL	486万
FTTH	809万

# KDDI殿がNTTに匹敵するFTTHユーザを獲得することは十分可能

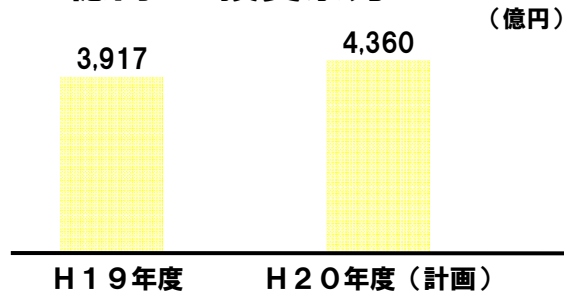
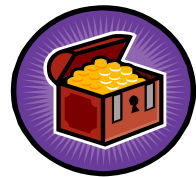
## KDDI殿の経営資源

### ① 4,000万もの顧客基盤



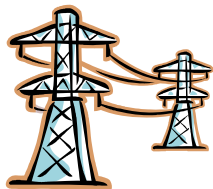
電話 : 842万  
 FTTH : 71万  
 ADSL : 140万  
 携帯電話 : 3,034万

### ② 2年間で8,000億円\*の投資余力



※移動体事業単体の設備投資額

### ③ 電力系事業者2社を自社傘下へ

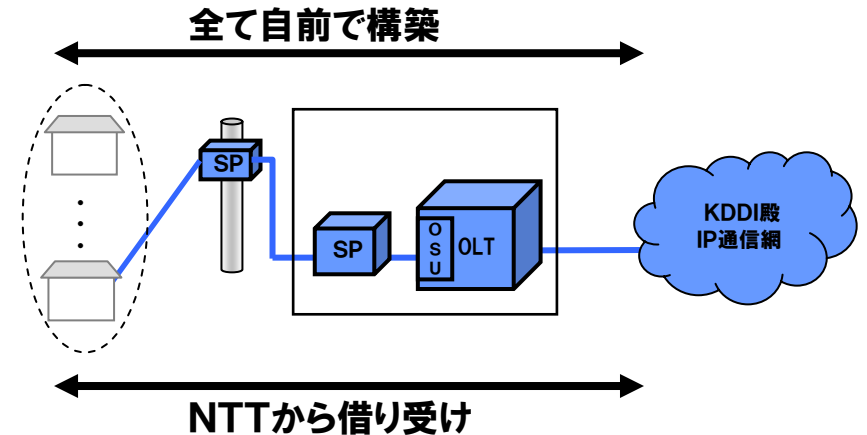


■東京電力(光通信事業)  
 2007年1月1日合併  
 事業譲渡額 約1,100億円

■中部テレコミュニケーション  
 2008年4月1日子会社化  
 買収額 約400億円

『作るか』

■光ファイバを自ら構築すること、NTTに匹敵するFTTHユーザを獲得することは十分可能(電力系事業者の買収により既に相当量の光ファイバを保有しております)



『借りるか』

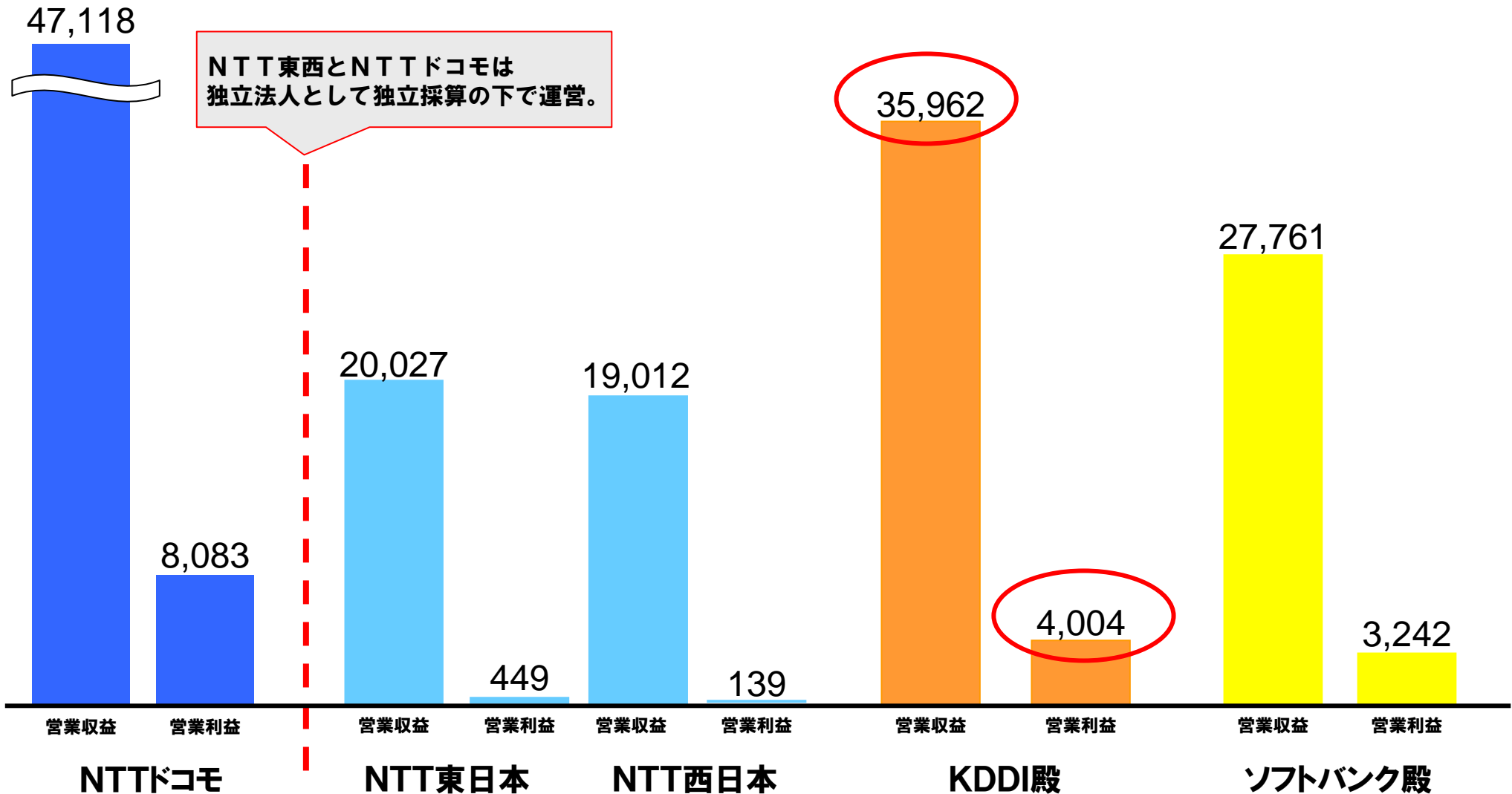
■光ファイバを自ら構築しなくても、NTTから借り受けた光ファイバを利用して、NTTに匹敵するFTTHユーザを獲得することも十分可能

(出典)KDDI社 2008年3月期決算説明会資料(平成20年4月24日) 及び2007年3月期 有価証券報告書(平成19年6月21日)

# 通信各社の財務状況

【平成19年度決算状況(営業収益／営業利益)】

単位:億円



(出典)各社2008年3月期決算説明会資料及び当社調べ